

心理アセスメントにおける描画法概観 (1)

名島 潤慈・杉本沙由理*・金子 恵理*

A Review of Drawing Methods in Psychological Assessment (1)

NAJIMA Junji, SUGIMOTO Sayuri and KANEKO Eri

(Received December 17, 2003)

I 本稿のねらい

心理アセスメントにおいてわれわれはおおむね「黒-色彩バウムテスト」「自画像」「真珠採り」の3つを用いることが多いが(名島, 1999, 2000, 2004abを参照)、描画法は質量共に広大である。描画法の一般的な長所としては、①見て分かる、②幼児でも可能、③言語的交流が困難なクライアント(例えば緘黙症)や自我機能がひどく障害されているクライアントでも可能、④性格テスト(描画テスト)だけでなく心理療法(描画療法)としても可能、⑤心の病の前兆が表示されやすい、⑥(種類にもよるが)発達面・知的面の評価も可能、⑦特に構成的描画法においてはイメージの自己治癒性が強化される(伊集院, 2000)、⑧面接場面において次から次へと繰り出される言葉が空転しているときに描画はほどよい緊張(抵抗感)をもたらしてくれる(滝川, 1984)、などがある。その反面、短所としては、①解釈がむずかしい、②熟達するのに長い経験が必要とされることが挙げられよう。

描画法の源泉としては、John N. Buck(1948)の*The H-T-P Technique*、Karl Koch(1949)の*Der Baumtest*、Karen Machover(1949)の*Personality Projection in the Drawing of the Human Figure*、Wilfred C. Hulse(1951)の*The emotionally disturbed child draws his family*がある。それぞれ、HTP・バウムテスト・人物画・家族画の出発点となった重要な業績である。

日本では1960年前後から描画法に関する研究が数多くなされるようになった。具体的には、深田尚彦(1957, 1958abc, 1959)によるバウムテストや家族画などについての研究、バウムテストについての篠原大典・国吉政一・津田舜甫らによる一連の研究(篠原ら, 1962ab;国吉ら, 1962ab;津田ら, 1962)がある。その後しばらくして、徳田良仁らによって学術誌の「芸術療法」が年刊誌として創刊され(第1号は1969年)、これはそれ以後、描画を含む数多くの投映法や芸術療法の発表の舞台となった。(1986年には年刊誌の「臨床描画研究」が創刊された。)なお、中井久夫(1970, 1972, 1974ab)は主として統合失調症者(精神分裂病者)を対象として、なぐりがき・風景構成法・家族怪獣なぐり描き法・枠づけ法などいくつもの独創的な研究を開始した。中井の特徴は、種々の描画法を性格テストではなくて病の内的経過をとらえる指標として、さらには治療的交流手段として用い

*山口大学大学院教育学研究科学校臨床心理学専修

るところにある。

以下本稿では描画法について、各描画内容別に概観してみたい。

II HTP の関係

HTP の関係では、最初に Buck (1948) が3枚の紙に鉛筆でそれぞれ家と木と人をできるだけ上手に描かせる「H-T-P 技法 (House-Tree-Person technique)」を開発し (最初の試行は1938年)、それ以後、クレヨンを用いた「色彩 H-T-P (chromatic House-Tree-Person)」(Hammer, 1967a)、家・木・人・その反対の性の人をそれぞれ4枚の紙に描かせる「HTPP テスト」(高橋, 1986, 1993; 空井・矢野, 1992) などがなされている。

一方、細木ら (1971) は、枠づけ中仕切り HTP・枠づけ統合 HTP・非枠づけ統合 HTP の3枚を描かせる「多面的 HTP 法」を開発した (大森ら, 1984も参照)。多面的 HTP 法は (非枠づけ統合 HTP を除いて) さまざまな枠づけのもとで家・木・人という題材の構成を行うが、枠づけによる描画の移り変わりが観察でき、被検者のさまざまな状態における内的イメージを見ることができる。

ところで、多面的 HTP 法は基本的には家・木・人を1枚の紙に描かせる1枚法であった。丸野ら (1975) は、1枚の画面に家・木・人を描かせる「統合 House - Tree - Person 法」や「自由画」や「スクリブル」を1人の破瓜病女性に適用した事例を報告している。中西 (1982) もこの統合 House - Tree - Person 法をさまざまな症例に対して継続的に適用している。

三上 (1979ab) は、この1枚法を「統合型 HTP 法 (Synthetic House-Tree-Person technique : S-HTP)」と名づけて集中的に研究しはじめた。「家」は家庭をはじめとする社会との関係、「木」は無意識的な自己像、「人」は意識的な自己像を表すとされる。

S-HTP はその後、三上自身をも含めてさまざまな人々によって用いられるようになった (三上, 1995; 三上ら, 1981, 1998; 石原・中西, 1983; 市川, 1988; 森田, 1989; 安達・荒川, 1997; 福西ら, 2000; 一丸ら, 2001; 三沢, 2002)。S-HTP の長所としては、① A4 用紙1枚と鉛筆のみで施行できるので集団検査やフィールドワークにも利用できる、② 家・木・人それぞれからの情報以外に3つの相互関係を見ることができる、③ 3つそれぞれをどのように描き、3つをどのように組み合わせるかは被検者の自由であるために自由度が高まり、被検者の心的状態が直接的に表現されやすい。その他、精神科領域で働く菊池 (2000) は、① S-HTP は今まで一度も患者に拒否されたことがない、② 病状変化の前兆が他のテストよりも早く現れやすいと述べている。ちなみに海塚 (2003ab) は、1枚の紙に描かれた S-HTP の絵から被検者に物語を作成してもらうという「描画物語相互吟味法」を提唱している。実施の手順は、① 被検者に12色の色鉛筆を用いて S-HTP を描いてもらう「描画段階」、② 描かれた絵からお話を作ってもらう「物語作成段階」、③ 作成された物語の吟味を検査者と被検者が相互的に行う「物語吟味段階」となる。この方法では、被検者の個別的・内的ストーリーが鮮明に浮かび上がってくる。

全体的に見て、HTP 法ではいずれも描画後質問が重要となるが、これについては Buck の合計64の設問に従って質問を行うか、そのなかのどれかを利用するか、それとも検査者が状況に応じて質問するかは検査者に委ねられている状態なので、今後も検討の余地がある。また、家は「人工物」、木は「自然」、人は「生物」であるが、このような観点から

の解釈も必要とされよう。

HTP 法における色彩については、ほとんど研究がなされていない。Buck が1948年と1949年に執筆した *The H-T-P Technique* に付録として付けられている John T. Payne (1949) の論文には、彼が創案した「色彩 HTP 画 (chromatic H-T-P productions)」の諸特徴が短く記述されている。

Hammer (1967a) は HTP の黒白描画 (鉛筆描画) よりも色彩描画 (クレヨン描画) のほうがパーソナリティのより深い層を露わにすると主張したが、これに対して Bolander (1977) はより慎重な態度を取った。彼女は、「無彩色画と色彩画を連続的に用いることはある種の病前の心理状態を早い段階で知る有益な補助手段と思われる。しかし、十分に機能している健常な成人の場合、この方法が無彩色画だけのときよりもパーソナリティの理解をもっと深めるかどうかはまだ明確でない」と述べている。S-HTP にクレヨンや色鉛筆を導入している菊池 (2000) は、躁・躁状態では多色、うつ・うつ状態では彩色なし (鉛筆のみ)、強い不安状態では鉛筆による黒い塗りつぶしや陰影、境界例ではカラフル云々と、いささか印象風に述べている。今後、色の意味や色彩の豊かさなどについての系統的な研究が望まれよう。

Ⅲ 人物画の関係

人物画 (自画像を含む) の関係では、それぞれ別々の紙に男性と女性を描かせる「人物画 (Drawing of the Human Figure, Human Figure Drawings)」(Machover, 1949; 扇田, 1958; 空井, 1986)、人間の全身像を1人だけ描かせる「人物画 (Human Figure Drawings: HFD)」(Koppitz, 1968; 日比, 1994)、等身大の白い大きな包み紙に全身の人間像を描かせる「等身大描画 (Life-Size-Body-Drawing: LSB D)」(Malchiodi, 1990)、まず2人の人物を描いてもらい、次に、思い浮かぶ背景を自由に描いてもらって絵を完成させる「人物二人法 (Dual Human Image technique)」(安藤, 1990)、自分が好きなことをやっているところを画用紙の左半分、やらなければならない義務だと思っているところを画用紙の右半分に描いてもらう「動的自己イメージ画 (Kinetic Self-Image Drawings)」(Murayama, 2001) がある。その他、<学校の絵をかいて下さい。そのときに自分と自分の先生と友だちを1人ないし2人、その絵に入れて下さい。何かやっているところで、しかも人物全体を描いて下さい>と教示する「動的学校画 (Kinetic School Drawing: KSD)」(Knoff & Prout, 1985)、<雨のなかの私>を描いてもらう「雨中人物画 (Draw-A-Person-in-the-Rain-Test)」(澤柳ら, 1989; 杉野, 1995) といったものもある。(この「雨中人物画」では<雨のなかの私>を描かせるが、もともと Hammer (1967b) や石川 (1985) では<雨のなかの1人の人物>を描かせた。) 雨中人物画では、雨がストレスを、傘が防衛様式を表すとされる。

人物画の性別については、1枚法において自分と同じ性でない人物を描くのは稀である。また、異なる性の人物を2枚目の紙に描かせる方法においても、1番目に描いた人物が自分と同姓でない場合は稀である。高橋 (1976) は、2枚法において異性像を先に描いたり異性像を大きく描くのは、①被検者にとって重要な人物が異性である、②異性への性的関心が強い、③自分の性役割を受け入れることができない、④同性愛などの性倒錯がある、といった可能性を挙げている。

一般的に言って、人物画の解釈はなかなかむずかしい。例えば、人物画には被検者の自己像が投映されるとされている。しかし、高橋（1986）が強調しているように、被検者にとっての重要な人物が投映されたり、被検者自身の現実像と理想像が混合的に投映されることもある。同じ自己像でも、林（1977）が指摘しているように、心理的に知覚された自己像であることも、無意識的に抑圧された自己像であることも、より生理的・身体的な自己像であることもある。それだけに慎重な描画後質問が必要となろう。

その他、今後検討されるべき問題として2つある。1つは、HTPテストのなかの人物と人物画テストの人物と家族画テストのなかの人物（自分）とはどのような違いがあるのかということである。もう1つは教示の問題である。われわれが普段施行している自画像テストや動的自己イメージ画では「自分自身」を描いてもらうのでまぎれがないが、雨中人物画のように「雨のなかの人物」を描いてもらう場合（Hammer, 石川）と「雨のなかの私」を描いてもらう場合（澤柳ら, 杉野）とではどのような違いが見られるのだろうか。

IV 家族画の関係

家族が描画の対象になったのはいつからであろうか。石川（1983）は、家族画（family drawings）は、Goodenoughによる人物画による知能検査やBuckのHTP法によって得られた人物画の性格分析から発展し、HulseやPorotによって家族画としての意味が見出されたと述べている。それまでの人物画は自分や架空の男性、女性などある1人の人を描画対象としていたが、家族画が生まれたことによって描画対象が人物から集団へと変化していった。そして、これをきっかけとして描画の目的は、個人の人格理解から個人の間関係の捉え方や人間関係における自分の位置など集団のなかの個人像を把握することへとその適用範囲を広げていった。

歴史的にはまずHulse（1951, 1952）が家族画についての先駆的な研究を行った。Hulseは情緒障害児によって描かれた家族画（FDT）について報告し、その表現方法の特徴について述べた。その後も、健常児と、神経症や情緒障害児という医学的な診断を受けた子どもの家族画を比較検討した。その結果、多くの家族画において程度や形式に違いはあるが家族間の対立、葛藤を見ることができたと報告している。深田（1958b）はHulseの研究について、「Hulseはもっぱら全体的な把握を行なって、部分的検討よりも重視した。ために主観的要素の入る面が大きかった」と指摘した。

深田以前にこの点に注目して家族画についての研究を発展させたのがReznikoffら（1956）である。彼らの「家族画テスト（Family Drawing test）」では、7～9歳の被検者100名の家族画を性別・人種・経済状態について比較検討した。Hulseの研究からヒントを得た彼らは、描画した順序、母親像の省略、母親の腕を描かない、同胞を描かない、指を描かないなどの項目にしたがって男女差を調べた。彼らの研究は家族画の部分的解釈の基礎的研究となった。日本では深田（1958b）がReznikoffらの方法を見習い、日本人の学童の家族画を検討した。そして、Reznikoffらの結果と比較したところアメリカ児童のデータと日本児童のデータには相違点が多く見られた。深田はその理由として、これはサンプリングの誤差であるよりも日米の文化差に基因するのではないかと主張した。

その後家族画は家族機能を分析するために用いられるようになり、また多くの研究者によって臨床に適した家族画の変法が考案されてきた（岡田, 2001）。例えばGrolld（1961）

は1枚の紙に両親と自分を描かせる「3人家族描画 (Drawing the Family Triangle)」を考案した。その他にも、動物親子画と人親子画の2枚法である「親子画 (OYAKO Drawing Method)」(長谷川, 1983, 1991)、母親と子どもを描いてもらう「母子画 (Mother-and-Child Drawings)」(Gillespie, 1994; 松下・石川, 1999)、予め描かれた円の中心に母親・父親・自分を3つ別々に描いてもらう「円枠家族描画 (Family-Centered-Circle-Drawings : F-C-C-D)」(Burns, 1991; 宮西, 1994) などがある。これらの家族画は家族のなかの親子関係に重点を置き、描画に表された被検者の親子イメージから実際の親子関係を把握することを目的としている。

一方、Burns & Kaufman (1970, 1972) は、自分も含めて家族が何かをしているところを描いてもらうという「動的家族画法 (Kinetic Family Drawings : KFD)」を考案した。それまでのDAP・HTP・DAFは行為のない静的なものであったが、KFDは描画のなかに動き (movement) という新しい臨床変数を初めて導入したのである。Burnsらは、描画の人物に動きが加わることによってそれまで見られなかった人物間の力動性が現れてくると強調している。なお、KFDでは検査者側の主観的な解釈を防ぐために、描画における家族の位置や描かれるもの、順序など、詳細な解釈指標が提示されている。

日本では加藤 (1986) がKFDについての研究を行なっている。加藤は、KFDは家族画に動きを加えることで家族力動が投影されてくると述べている。その他、通常のKFDの後に中学時代・小学時代・幼少時のKFDを描かせる「回想動的家族画 (Retrospective Kinetic Family Drawings : RKFD)」(小栗, 1995) や5歳のときの自分と家族が何かをしているところを描かせる「退行動動的家族画 (Retarded Kinetic Family Drawing : RKFD)」(松下・石川, 1995)、「あなたが小さい頃のあなたの家族をあなた自身も含めて何かやっているところを描いて下さい」と教示する「回想動的家族画 (Kinetic Family Drawing Recollecting Method)」(久保, 1999) なども考案されている。

近年、家族画は家族イメージを描いてもらうという課題設定から、家族イメージを何か別のものに置き換えて表現してもらうという課題設定へと変化してきている。代表的なものとしては、家族を動物にたとえて描いてもらう「動物家族画」(杉野, 1984, 1987; 井口, 1995, 1999, 2000) や、色と形で家族構成員を表現する「家族イメージ彩色法 (Family Image Coloring Method)」(岡田, 2001) が挙げられる。これらの方法は、①実際の家族を描いてもらう課題よりも家族のより内面的なイメージを表現できること、②被検者への心理的な侵襲の度合いを低くするといった利点がある。

V 動物画の関係

動物は人間にとって非常に身近な存在である。杉野 (1987) は応用心理学者の Helga Eng の「動物画は旧石器時代の洞窟の壁画に多く見られるもので、それ以後宗教や形而上的観念が存在し始める新石器時代や青銅器時代になると、動物や人間、その他の自然的事物の表現は稀になり、抽象的幾何的な装飾へと変貌していった」という見解を受けて、動物イメージは人間のより原始的な心的エネルギーと関連していると述べている。

動物画が投映法の対象として研究されはじめたのはいつからであろうか。渋谷・石川 (1987) は動物画・動物家族画の研究の主要なものを年代別に整理した上で、動物画の最初研究者として Brick (1944) の名前を挙げている。Brick は、「社交性のない子ども、あるいは

劣等感の強い子どもは予想に反して力強い動物を描く傾向が見られた」と述べたとのことである。

心理テストの対象として動物画を取り上げた第一人者は Bender (1952) である。Bender は投映技法の1つとして「動物画」を紹介した。具体的には、子どもに「好きな動物」あるいは「好きな動物と嫌いな動物」を描かせ、得られた動物を攻撃的な動物と非攻撃的な動物に分類して人格査定を試みた。一方、Denny (1972) は、絵画療法の技法の1つとして「動物画 (Draw Yourself as an Animal)」を提案した。それはクライアントに自分自身を動物にたとえて描いてもらうというものである。その他にも一番好きな動物、一番嫌いな動物を描いてもらうという教示の仕方もある。Denny は、検査者と被検者が「動物画」を媒介として話をするのは、①クライアントの本質を明らかにする、②愉快的な会話ができるという2つの利点があると述べている。

日本では杉野 (1984) が絵画療法における動物画の治療的意義について検討している。彼は Denny の提唱する「動物画」からヒントを得て、自分の家族を動物にたとえて描いてもらう「家族動物画」を考案した。そして、非定型精神病と統合失調症の絵画療法の3症例を通じて「動物画」の治療的意義について検討し、「動物画」が統合失調症の絵画療法の過程で転換期や乗り越え期と関係し、治療的に重要な意味を持っていることを示した。さらに杉野 (1987) は、「家族動物画」という名称を「動物家族画」へと変更し、その有効性を検討した。その結果彼は、「動物の画」は感情や意志を浮き彫りにしたり、治療に大切な退行や象徴形成を促進し、「家族の画」は家族力動を理解したり家族の相互作用を扱うことができると主張し、さらに、「動物家族画」は「動物の画」と「家族の画」の両方の機能を兼ね備えており、家族関係を社会的・文化的レベルよりもより本能レベルに近いところで理解することになると述べた。

渋谷・石川 (1987) によれば、個人を対象とした動物家族画の症例報告・臨床研究や発達心理学的研究は数多く、自分の家族を動物に置き換えて絵に描いてもらうという描画方法は杉野の他にも Landgarten (1972) や Brem-Gräser (1957) が類似した技法を報告しているとのことである。

井口 (1994) は子どもを対象にした Brem-Gräser の「動物家族画」の研究方法にならって、1987年から日本の一般の子どもを対象に「動物家族画」の調査を始めた。そして、彼女は593名の児童に動物家族画を実施した結果から全体の動物選択の傾向について男女差を中心にして述べ、さらに、父親像・母親像として選択された動物の性格を検討している。井口 (1999) はまた、動物家族画に表現される「本人と家族の関係」という視点から、動物家族画を孤立型・支配型・自分中心型・親支配型などに分類している。ちなみに井口 (1995) は家族を動物に置き換えて描くことの利点として、①現実よりも一歩ファンタジーのなかに踏み込んで象徴化された形で描くため描画に取り組みやすい、②現実の対人関係に基づくよりもより無意識的で情緒的なイメージの強調された姿形が描かれる、としている。

「動物家族画」については事例検討も行われている。井口 (1995, 2000) は気管支喘息や不登校などの児童に「動物家族画」を実施した事例を紹介し、その治療的意義を検討した。渋谷・石川 (1987) は夫婦療法に「動物家族画」を導入した事例を報告している。

一方、長谷川 (1983, 1991) は、動物の親子を描いてもらう「動物親子画」と親子を描いてもらう「人親子画」を考案し、その治療的意義について検討している。彼は、「動物親子画」には親子イメージだけでなく、動物に託された種々の意味内容が加わるため、そ

の分重層的な把握が可能となるが多かったと述べている。

ところで、従来の動物画は自分の家族を動物にたとえて描いてもらうという研究が多かった。この場合、課題がより直接的であるため、被検者への侵襲性を危惧している研究者もいる。例えば井口(2000)は、動物家族画を描くことは被検者が自分以外の家族メンバーに対する感情を無意識的にも感知しなくてはならず、それを表現することは心の内側に踏み込んだ作業になると述べている。

一方、Denny(1972)は、「あなたの最も好きな(ないし嫌いな)動物を描いて下さい」という教示を行っている。また、長谷川(1983, 1991)も「動物の親子を描いて下さい」という教示を行っている。杉野(1984)は、これらの指示の仕方は患者の自己像と描画とを直接に結びつけないので、患者への侵襲の危険性はより少なく、適応範囲は広いと考えられると述べている。

杉本(2003a)は、森のなかで5匹の動物たちが遊んでいるところを描いてもらうという「動物遊戯画テスト」を考案している。このテストには、①森の仲間たちを描いてもらうという教示を行うことは集団を家族に限定しないためそれだけ侵襲性が低くなる、②5匹にいろいろな集団をあてはめることができるので自由度が高く、家族関係に限らず友人関係・職場の人間関係などさまざまな対人関係を投射できるという利点がある。その後杉本(2003b)は、「動物遊戯画テスト」の名称を「動物イメージ媒介法」と変更し、更なる検討を加えた。杉本は、前述のDennyの動物画の利点を考慮して、描画後に動物画を媒介として被検者と語りあうことを動物イメージ媒介法の手順に組み入れた。杉本は、被検者自らが描いた動物のイメージを借りて自己について語ってもらうことにより、検査者の被検者理解が深まるという効果に加えて、被検者の自己理解を促進させる効果が得られたと述べている。

以上の他にも、家族を怪獣として描かせる「家族怪獣なぐり書き法」(中井, 1970)が試みられている。

近年、動物画は、被検者への侵襲性の低さや被検者を退行させやすいなどの利点から多くの研究者から注目され、研究が進められている。しかしながら、①動物画が児童期以上のすべての年齢に実施可能であると多くの研究者が述べているにもかかわらず、青年期以降の被検者を対象とした研究が少ない、②色彩の有無についての比較研究がなされていない、③基礎的研究が少ないため解釈の規準が確立されていないなどの課題が残されている。

VI 誘発線の関係

誘発線の関係では、ドイツのEhrig Warteggが1939年に発想しスイスのMaria Rennerが1953年に考案した「ワルテッグ描画テスト(Der Wartegg-Zeichentest)」(Ave-Lallemant, 1994a; 福屋・松原, 1996)、アメリカのKinght(1952)の描画完成法(Drawing-Completion Test)を修正した「描画完成法」(扇田, 1976)、中井が発案した「誘発線法(Elicitor Technique)」(後藤・中井, 1983; 松井ら, 1990, 寺沢ら, 1992)、中井の誘発線法に人物の部分刺激を加えた「拡大誘発線法(Extended Elicitor Technique)」(伊集院, 1990)、セラピストが画用紙に簡単な線を描き、それをういてクライアントが絵を完成させる「きっかけ法(Trigger Technique)」(傳田ら, 1987; 武井, 2001)、ワルテッグ誘発線法と並列型誘発線法を用いた「再構成法」(寺沢, 2000)といったものがある。ちなみに、中井の

誘発線法は、検査者（セラピスト）が被検者（クライアント）の目の前で、サインペンを用いてフリーハンドで描く4枚ないし5枚の刺激図形（所定の誘発線）を被検者に完成してもらうものである。被検者側の抵抗はHTP法よりも少なく、検査者側の抵抗感はSquiggle法よりも少ないという。

描画完成・誘発線技法は視覚的な刺激図形によって被検者が能動性を発揮し、絵を完成させるものである。自我機能の低下した人でも抵抗なく行うことができる。また、誘発線を描くという手続きを検査者が行うことで、検査者が参加し、ある程度描画に影響を与えることができる。誘発線それ自体には特に積極的な意味を持っていないパターン図形を用いたものが多いが、「拡大誘発線法」のように明らかに人の顔（表情）を思い起こさせる線を使用している場合もある。なお、使用する紙の大きさは、例えば描画エネルギーの強い児童なら大きめの四つ切り画用紙を使う、統合失調症者ならもっと小さい画用紙を使うといった工夫が大切となる（後藤・中井，1983を参照）。（ワルテック描画テストや描画完成法では、1枚の画用紙のなかに8つの刺激図形が描かれた8つの正方形があり、各正方形の大きさも決められているが、被検者によって大きさを加減することも必要となろう。）

各誘発線・刺激図形によってどのようなものが投映されるのかということについての統計的・発達の研究、どのような誘発線・刺激図形を用意したらよいかについての研究、投映された内容（被検者が描いた絵）の意味づけ・評価についての研究はこれからの大きな課題であろう。

Ⅶ 風景の関係

風景の関係では、さまざまな研究者によっていろいろなテーマの描画法が考案されている。それらは、自然の景色を描いてもらうものから、水や室内を描いてもらうものまで多彩であり、各研究者の独自性に満ちている。

中井は箱庭療法に示唆を受け、1枚の紙の上に川・山・田・道・家・木・人・花・動物・石または岩・何か足りないと思う物をサインペンとクレヨンで描いてもらうという「風景構成法（Landscape Montage Technique：LMT）を1969年に考案した（中井，1970，1984；山中編，1984）。LMTは中井（1984）によれば、「四周の枠のみで陰伏的に構造化されている素白の空間に統合的指向性を以て一つの全体を『構成』する構成的表象を基礎とする方法」である。統合失調症の治療や理解に新たな視点を提供し続けている（中里，1982；皆藤，1988）。それ以外、境界例の患者（石川，1983）、アルコール依存症や場面緘黙症（中井，1983）、登校拒否（弘田ら，1986）、離人症（松下，2001）などの研究報告がなされており、その適応範囲が拡大されつつある。また、高石（1996）は、「自我の視点のあり方」という観点から風景構成法の構成型を7つに分類している。

ドイツの心理学者のAvé-Lallemant（1994b）は、鉛筆で海の波と星空を描いてもらう「星と波テスト（Der Sterne-Wallen Test, the Star-Wave-Test：SWT）」を考案した。SWTはテストの成立の初期は就学前の児童のための発達診断として利用されていたが、現在では機能診断と同時に人格診断テストとしても使用され、その有効性についての研究が重ねられている（Rhyner，1998；杉浦・森，1998，1999；Bruno Rhynerら，2000；傍土，2002）。

その他にも、ある場所から別の場所へとかかっている橋の絵を描いてもらい、その後、

描いた人の位置を点で、橋を渡る方向を矢印で描いてもらうという「橋の絵 (the Bridge Drawings)」(Hays & Lyons, 1981) や、心のなかに思い浮かんだ火のある風景を描いてもらう「火のある風景画法 (Fire in Landscape Technique : FLT)」(石田, 1996, 1999)、「草むらに落とした硬貨 (500円玉) を探している自分」を描かせる「草むらテスト」(横田, 1993 ; 加藤・横田, 1996) などがある。

描画の課題となっている風景とは自然の景色だけではない。室内画や洞窟画などの屋内の空間や、水、卵など物質を描いてもらう手法も考案されている。例えば片口・松岡(1981)は、水の絵を描いてもらう「水連想検査法 (Water Association Test : WAT) を考案した。彼らは、ロールシャッハテストのスコアリング法を参考にして詳細な解釈指標を提示し、WATによる人格理解を試みた。また、田中 (1995) は、卵から生まれるものを描いてもらう「卵画 (Egg Drawing)」と洞窟のなかから見た外の世界の風景を描いてもらう「洞窟画 (Cave Drawing)」を考案した。「卵画」は、①検査者が卵型の大きな楕円形を描く、②クライアントにその卵にひびをいれてもらう、③卵から生まれてくると思うものを割れた卵の殻と共に描いてもらうという手順で行なわれる。田中 (1995) は、「卵画は治療者にとってはクライアントの内在している物語を理解するよい機会となり、クライアントにとって破壊からの創造や再生の過程となる」と述べており、「洞窟画」にも「卵画」と同等の効果があることを示唆している。

その他、紙の上に家を描いてもらい、それが仕上がったら、<では、その紙を裏返して下さい。今度は、今表に描いた家の反対側、裏側のほうをそこに描いて下さい>と教示する「家屋画二面法」(井上, 1984)、通常の家屋画を書いてもらった後でそのなかの1室を2枚目の用紙に描いてもらう「室内画 (Room-Drawing-Test)」(山森, 2002) などがある。

風景を描いてもらうことの利点としてはまず、風景を描くことは二次元の紙の上に三次元の空間を描くことになるため、被検者の空間構成の能力を検討することができる。例えばLMTやSWTは、幼児・児童の発達検査やバセドウ病患者や統合失調症の視点を理解する手段としても利用されている。また、描画に風景物が加わることによって描画に描かれている場面が理解しやすくなる。例えば、石田 (1996) は「火のある風景画法」を解釈するにあたり、火だけが描かれている場合では描画中にどんな場面が展開しているか分かりにくい、火以外の風景物が描かれることによって火だけが描写されているよりも描画に描かれている場面を理解することができ、そのことは描き手の内的世界の理解を深めることになる」と述べている。また、石田 (1996) は、風景を描いてもらうことによって被検者に描画に対しての何らかのストーリーを生じさせやすくし、これは被検者の心のなかに内在している物語を理解するための有効な手段になると述べている。

描画課題に「洞窟」という風景を取り入れた田中 (1995) は、洞窟という日常とは異なった保護された空間を設定することによって臨床的に利用価値の高い描画法となりうることを示唆している。また、杉本 (2003ab) は描画に森という風景を取り入れた結果、描かれた場面の様子や時間帯など描画場面の理解を深めることができると共に、描画の物語性が高くなり被検者の語りを促進する効果が生まれると述べている。このように、風景を描画に取り入れることは被検者理解を深める効果があると思われる。一方、石田 (1996) は、被検者が風景を描かない場合には描画に対する抵抗・外界への関心の狭さ・心的エネルギーや能動性、統合能力の欠如が示唆されると述べている。したがって、描画に三次元の風景を描くということは被検者にとって精神的に負担となることも否定できない。

風景にまつわる絵は、心理検査としての利用、病院臨床や学校臨床における絵画療法としての利用などの研究が進められており、数多くの描画法が考案されている。しかし、考案される技法が多くかつ多彩であるが故に1つ1つの技法についての追跡研究が少なく、それぞれが実施方法や適用範囲などについての検討の余地を残していよう。

VIII おわりに

本論文においては描画法のなかの HTP・人物画・家族画・動物画・誘発線法・風景の関係といった描画法を概観した。なぐりがき・自画像・バウムテスト・枠づけ法その他については次回の「心理アセスメントにおける描画法概観 (2)」において述べたい。

引用文献

- 安達圭一郎・荒川ゆかり 1997 統合型 HTP 法による精神分裂病患者の描画タイプ分類
臨床精神医学, 26:4, 463-472.
- 安藤 治 1990 人物二人法—他者表現の治療的機能 芸術療法学会誌, 21:1, 46-54.
- Avé-Lallemant, U. 1994a *Der Wartegg-Zeichentest in der Lebensbearbeitung*.
München: Ernst Reinhardt Verlag. 高辻玲子・杉浦まそみ子・渡邊祥子訳, 2002, 心理相談のためのワルテック描画テスト, 川島書店.
- Avé-Lallemant, U. 1994b *Der Sterne-Wellen-Test. Zweite, erweiterte Auflage*.
München: Ernst Reinhardt Verlag.
- Bender, L. 1952 *Child Psychiatry Techniques*. Springfield: C. C. Thomas.
- Bolander, K. 1977 *Assessing personality through Tree Drawing*. New York: Basic Books. 高橋依子訳, 1999, 樹木画によるパーソナリティの理解, ナカニシヤ出版.
- Brem-Gräser, L. 1957 *Familie in Tieren*. München: Ernst Reinhardt Verlag.
- Brick, M. 1944 Mental hygiene value of children's art work. *American Journal of Orthopsychiatry*, 14, 136-146.
- Bruno Rhyner・杉浦京子・鈴木康明 2000 星と波テスト入門 川島書店
- Buck, J. N. 1948 The H-T-P technique: A qualitative and quantitative scoring manual. *Journal of Clinical Psychology*, 4, 317-396 and Buck, J. N. 1949 The H-T-P technique: Illustrative cases. *Journal of Clinical Psychology*, 5, 37-74. 加藤孝正・萩野恒一訳, 1982, HTP, 診断法, 新曜社.
- Burns, R. C. 1991 Family Circle Drawings with Symbol Probes. 加藤孝正訳・解題, シンボル探査による円枠家族描画 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究VI, 金剛出版, 84-102.
- Burns, R. C. & Kaufman, S. H. 1970 *Kinetic Family Drawings (K-F-D): An introduction to understanding children through Kinetic Drawings*. New York: Brunner/Mazel.
- Burns, R. C. & Kaufman, S. H. 1972 *Actions, styles and symbols in Kinetic Family Drawings*. New York: Brunner/Mazel. 加藤孝正・伊倉日出一・久保義和訳, 1975, 子どもの家族画診断, 黎明書房.
- 傳田健三・田中 哲・笠原敏彦 1987 相互性を加味した一描画法 芸術療法, 18,

59-66.

- Denny, J. M. 1972 Techniques for individual and group art therapy. *American Journal of Art Therapy*, 11:3, 117-134.
- 深田尚彦 1957 幼児の樹木描画の発達的研究 心理学研究, 28:5, 286-288.
- 深田尚彦 1958a 心理臨床における描画テスト法—特に Family Drawing Test 心理学研究, 29:2, 117-123.
- 深田尚彦 1958b 学童の家族描画 心理学研究, 29:4, 264-267.
- 深田尚彦 1958c リーダーシップとグループ描画テスト 心理学研究, 29:4, 268-271.
- 深田尚彦 1959 学童の樹木描画の発達的研究 心理学研究, 30:2, 107-111.
- 福西勇夫・菊池道子・溝口純二 2000 統合型 HTP 法をめぐる話題—医学領域での試用とその可能性 福西勇夫・菊池道子編, 現代のエスプリ390 心の病の治療と描画法, 至文堂, 184-198.
- 福屋武人・松原由枝 1996 描画を技法としてどう使うか—ワルテック描画テストを中心に 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 XI, 金剛出版, 3-22.
- Gillespie, J. 1994 *The projective use of Mother-Child Drawings: A manual for clinicians*. New York: Brunner-Routledge. 松下恵美子・石川 元訳, 2001, 母子画の臨床応用—対象関係論と自己心理学, 金剛出版.
- 後藤多樹子・中井久夫 1983 “誘発線”(仮称)による描画法 芸術療法, 14, 51-56.
- Grold, L. J. 1961 Drawing the family triangle: An adjunct to the psychiatric evaluation. *Bulletin of the Menninger Clinic*, 25, 69-77.
- Hammer, E. F. 1967a The chromatic H-T-P, a deeper personality-tapping technique. In E. F. Hammer (Ed.) *The clinical application of projective drawings. Second printing*. Springfield, Illinois: Charles C Thomas, 208-235.
- Hammer, E. F. 1967b Recent variations of the projective drawing techniques. In E. F. Hammer (Ed.), *The Clinical Application of Projective Drawings*, second printing. Springfield, Illinois: Charles C Thomas, 391-438.
- 長谷川雅雄 1983 「親子イメージ」と対人的距離—「親子画」の試みとそこにあらわれた「密着像」について 精神神経学雑誌, 85:12, 912-913.
- 長谷川雅雄 1991 「親子画」の試み—描画にあらわれた「心的距離」 アカデミア, 人文・社会科学編, 53, 81-152.
- 林 勝造 1977 「身体イメージ」と描画—人物画と樹木画を中心として 教育と医学, 25:6, 40-47.
- Hays, R. E. & Lyons, S. J. 1981 The Bridge Drawing: A projective technique for assessment in art therapy. *The Arts in Psychotherapy*, 8, 207-217.
- 弘田洋二・長屋正男 1986 「風景構成法」による神経症的登校拒否の研究 心理臨床学研究, 5:2, 43-58.
- Hulse, W. C. 1951 The emotionally disturbed child draws his family. *Quarterly Journal of Child Behavior*, 3, 152-174.
- Hulse, W. C. 1952 Childhood conflict expressed through family drawings. *Journal of Projective Technique*, 16, 66-79.
- 日比裕泰 1994 人物描画法—絵にみる知能と性格 ナカニシヤ出版

- 傍士一郎 2002 「星と波テスト」の人格テストとしての可能性 山口大学心理臨床研究, 2, 61-70.
- 細木照敏・中井久夫・大森淑子・高橋直美 1971 多面的 HTP 法の試み 芸術療法, 3, 61-67.
- 市川珠理 1988 統合型 HTP 法における分裂病者の描画構造—多変量解析による分析 臨床精神医学, 17, 1221-1233.
- 一丸藤太郎・倉永恭子・森田裕司・鈴木健一 2001 通り魔殺人事件が児童に及ぼした影響—継続実施した S-HTP から 心理臨床学研究, 19:4, 329-341.
- 伊集院清一 1990 拡大誘発線法における“埋没化”現象—人物部分刺激として捉えた際の反応についての考察 芸術療法学会誌, 21:1, 16-26.
- 伊集院清一 2000 描画法を用いた臨床についての展望 福西勇夫・菊池道子編, 現代のエスプリ390 心の病の治療と描画法, 至文堂, 35-46.
- 井口由子 1994 子どもの「動物家族画」の調査から—その動物選択の傾向と父親像・母親像について 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究 IX, 金剛出版, 200-219.
- 井口由子 1995 動物家族画 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究 X, 金剛出版, 3-14.
- 井口由子 1999 査定場面での描画の応用: 動物家族画を中心として 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究 XIV, 金剛出版, 56-70.
- 井口由子 2000 動物家族画法 福西勇夫・菊池道子編, 現代のエスプリ390 心の病の治療法と描画法, 至文堂, 156-166.
- 井上 亮 1984 風景構成法と家屋画二枚法—精神分裂病者の“棲まい”方からみた“風景”試論 山中康裕編, 中井久夫著作集別巻 風景構成法, 岩崎学術出版社, 163-187.
- 石田 弓 1996 火のある風景描画法に関する基礎的研究—健常者と分裂病者の描画内容と描画形式 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究 XI, 金剛出版, 214-237.
- 石田 弓 1999 臨床描画法に表されるイメージ・象徴的表現の理解—火のある風景描画法を通して 藤原勝紀編, 現代のエスプリ387 イメージ療法, 76-83.
- 石原聖久・中西昭憲 1983 人物像に描画変化がみられた対人恐怖症の1例 芸術療法, 14, 37-41.
- 石川 元 1983 家族絵画療法 海鳴社
- 石川 元 1985 雨中人物画法 Draw-A-Person-in-the-Rain-Test こころの臨床ア・ラ・カルト, 11, 43-49.
- 石川嘉津子 1983 境界例の風景構成法から 芸術療法, 14, 43-49.
- Jolles, I. 1971 *A catalog for the qualitative interpretation of the House-Tree-Person (H-T-P). Revised.* Los Angeles: California.
- 皆藤 章 1988 風景構成法からみた心理療法過程—事例を中心として 芸術療法, 19, 15-21.
- 海塚愛華 2003a 描画物語相互吟味法—描画における「個」の理解への試み 山口大学大学院教育学研究科修士論文抄, 1, 27-30.
- 海塚愛華 2003b ある抑うつ神経症者に適用した描画物語相互吟味法 山口大学心理臨床研究, 3, 31-38.

- 片口安史・松岡正明 1981 水連想検査法 (WAT) —その I 発想の糸口と反応分類の基礎 中京大学文学部紀要, 16:1, 66-98.
- 加藤昌弘・横田正夫 1996 精神分裂病患者の草むらテストに見られる臨床的特徴の検討 日本心理臨床学会第15回大会発表論文集, 356-357.
- 加藤孝正 1986 動的家族画 (KFD) 家族画研究会編, 臨床描画研究 I, 金剛出版, 87-104.
- Kinght, M. G. 1952 *The Drawing-Completion Test*. New York: Grune & Stratton.
- 菊池道子 2000 描画テストを用いた事例—統合型HTP 精神科領域の事例 福西勇夫・菊池道子編, 現代のエスプリ390 心の病の治療と描画法, 至文堂, 103-112.
- Knoff, H. M. & Prout, H. T. 1985 *Kinetic drawing system for family and school: A handbook*. Los Angeles: Western Psychological Services. 加藤孝正・神戸 誠訳, 2000, 学校画・家族画ハンドブック, 金剛出版.
- Koch, K. 1949 *Der Baumtest: Der Baumzeichenversuch als psychodiagnostisches Hilfsmittel*. Bern u. Stuttgart: Hans Huber.
- Koppitz, E. M. 1968 *Psychological evaluation of children's human figure drawings*. New York: Grune & Stratton. 古賀行義監修, 1971, 子どもの人物画, 建帛社.
- 久保 恵 1999 回想動的家族画法に現れた親子関係 箱庭療法学研究, 12:1, 43-52.
- 国吉政一・津田舜甫・篠原大典・小池清廉 1962a Baumzeichenversuch の研究(3)—精神薄弱児の Baumzeichnung 精神神経学雑誌, 64, 817-818.
- 国吉政一・小池清廉・津田舜甫・篠原大典 1962b バウムテスト (Koch) の研究(1)—発達段階における児童 (正常児と精薄児) の樹木画の変遷 児童精神医学とその近接領域, 3:4, 47-56.
- Landgarten, H. B. 1972 *Clinical Art Therapy: A comprehensive guide*. New York: Brunner/Mazel.
- Machover, K. 1949 *Personality projection in the drawing of the human figure*. Springfield, Illinois: Charles C Thomas. 深田尚彦訳, 1974, 人物画への性格投影, 黎明書房.
- Malchiodi, C. 1990 *Breaking the silence*. New York: Brunner/Mazel.
- 丸野 廣・徳田良仁・徳田秀子 1975 破瓜病的心像世界へのイメージ—絵画精神療法的接近 芸術療法, 6, 23-38.
- 松井律子・鶴田真理・杉林 稔・中井久夫 1990 誘発線法についての新しい方法と解釈について 芸術療法学会誌, 21:1, 5-15.
- 松下恵美子・石川 元 1995 退行動的家族画 (RKFD) の臨床—三代アプローチへの応用も含めて 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 X, 金剛出版, 15-31.
- 松下恵美子・石川 元 1999 母性意識と母子画に描かれた対人表現との関連について 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 XIV, 金剛出版, 43-55.
- 松下姫歌 2001 風景構成法の構成のあり方を通して見た離人感の心的意味 箱庭療法学研究, 14:2, 63-74.
- 三上直子 1979a 統合型HTP法における分裂病者の描画分析—一般成人との統計的比較 臨床精神医学, 8:1, 79-90.
- 三上直子 1979b 統合型HTP法における分裂病者の描画分析—病態に応じた継時的変

- 化 臨床精神医学, 8:12, 101-109.
- 三上直子 1995 S-HTP 法—統合型 HTP 法の臨床的・発達のアプローチ 誠信書房
- 三上直子・岩崎和江 1981 統合型 HTP 法における幼稚園児から大学生までの描画発達
臨床精神医学, 10:11, 27-35.
- 三上直子・平川義親・尾崎敏子・芹澤政子・坂野剛崇 1998 非行少年の統合型 HTP 法
に関する発達のアプローチ 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 X III, 金
剛出版, 196-217.
- 三沢 (旧姓三上) 直子 2002 描画テストに表れた子どもの心の危機—S-HTP における
1981年と1997~99年の比較 誠信書房
- 宮西陵子 1994 円枠家族描画法 (F-C-C-D) の非行少年への適用 日本描画テスト・描
画療学会編, 臨床描画研究 IX, 金剛出版, 165-182.
- 森田裕司 1989 統合型 HTP 法における分裂病者の描画特徴—全体的評価による因子分
析 心理臨床学研究, 6:2, 29-39.
- Murayama, K. 2001 Female art students' images drawn in Kinetic Self-Image
drawings. *Japanese Bulletin of Arts Therapy*, 32:2, 34-41.
- 名島潤慈 1999 黒—色彩バウムテストの解釈 熊本大学教育実践研究, 16, 61-65.
- 名島潤慈 2000 心理アセスメント 鏑幹八郎・名島潤慈編著, 新版 心理臨床家の手引
誠信書房, 31-67.
- 名島潤慈 2004a 心理アセスメントにおける黒—色彩バウムテスト・自画像・真珠採り・
夢 (1) 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 17, 143-156.
- 名島潤慈 2004b 心理アセスメントにおける黒—色彩バウムテスト・自画像・真珠採り・
夢 (2) 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 17, 157-166.
- 中井久夫 1970 精神分裂病者の精神療法における描画の使用—とくに技法の開発によっ
て作られた知見について 芸術療法, 2, 77-90.
- 中井久夫 1972 精神分裂病の寛解過程における非言語的接近法の適応決定 芸術療法,
4, 13-25.
- 中井久夫 1974a 精神分裂病状態からの寛解過程—描画を併用せる精神療法をとおし
てみた縦断的観察 宮本忠雄編, 分裂病の精神病理 2, 東京大学出版会, 157-217.
- 中井久夫 1974b 枠づけ法覚え書 芸術療法, 5, 15-19.
- 中井久夫 1983 十余年後に再施行した風景構成法 芸術療法, 14, 57-59.
- 中井久夫 1984 風景構成法と私 山中康裕編, 中井久夫著作集別巻 風景構成法, 岩崎
学術出版社, 261-271.
- 中西昭憲 1982 継続的 Synthetic House-Tree-Person method の治療的意義 芸術療
法, 13, 23-31.
- 中里 均 1982 急性分裂病状態の寛解過程における風景構成法の縦断的考察 芸術療
法, 13, 7-16.
- 小栗正幸 1995 回想動的家族画 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 X,
金剛出版, 32-44.
- 扇田博元 1958 絵による児童診断法 黎明書房
- 扇田博元 1976 絵による児童の個性発見法 黎明書房
- 岡田珠江 2001 「家族イメージ彩色法」—色と単純なかたちとで表現する家族画 日本

- 芸術療法学会誌, 32:2, 5-13.
- 大森淑子・矢花美美子・風間芳枝・川地悦子・細木照敏・中井久夫 1984 多面的HTP法における不登校症例の臨床経験 芸術療法, 15, 39-47.
- Payne, J. T. 1949 Comments on the analysis of chromatic drawings. *Journal of Clinical Psychology*, 5, 75-76
- Reznikoff, M. & Reznikoff, H. R. 1956 The family drawing test: A comparative study of children's drawings. *Journal of Clinical Psychology*, 12, 167-169.
- Rhyner, B. 1998 Projective drawing tests as a follow-up tool in psychotherapy. 京都文教心理臨床センター紀要, 創刊準備号, 34-44.
- 空井健三 1986 人物画における男性像と女性像 家族画研究会編, 臨床描画研究 I, 金剛出版, 33-49.
- 空井健三・矢野 智 1992 HTPP法における現代学生の心的特性について 中京大学文学部紀要, 27:2, 1-22.
- 澤柳志津江・石川 元・川口浩司・大原健士郎 1989 「雨中人物画」にあらわれた森田療法の治療過程 臨床精神医学, 18:1, 81-89.
- 渋沢田鶴子・石川 元 1987 夫婦療法における動物家族画 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 II, 金剛出版, 91-108.
- 篠原大典・国吉政一・小池清廉・山口寿雄 1962a Baumzeichenversuchの研究(1)—発達段階におけるBaumzeichenversuchの変遷 精神神経学雑誌, 64, 808.
- 篠原大典・国吉政一・小池清廉・山口寿雄 1962b Baumzeichenversuchの研究(2)—症例研究 精神神経学雑誌, 64, 808.
- 杉本沙由理 2003a 動物遊戯画テストの試み 山口大学心理臨床研究, 3, 69-76.
- 杉本沙由理 2003b 動物イメージ媒介法 中国四国心理学会第59回大会発表資料
- 杉野建二 1984 絵画療法における『動物画』の治療的意味 芸術療法, 15, 31-37.
- 杉野建二 1987 「動物家族画(DFA)」の臨床的使用について 家族画研究会編, 臨床描画研究 II, 金剛出版, 128-142.
- 杉野建二 1995 アルコール依存症の内観療法前後の「雨中人物画」の変化 日本描画テスト・描画療学会編, 臨床描画研究 X, 金剛出版, 169-183.
- 杉浦京子・森 秀都 1998 日本における「星と波テスト」の試み 日本医科大学基礎科学紀要, 24, 5-32.
- 杉浦京子・森 秀都 1999 発達機能テストとしての星と波テスト—幼児の描画の実際 日本医科大学基礎科学紀要, 27, 19-43.
- 高橋雅春 1976 描画法による性格診断 大原健士郎・岡堂哲雄編, 現代のエスプリ別冊 現代人の異常性 6 異常の発見, 至文堂, 111-130.
- 高橋雅春 1986 HTPPテスト 家族画研究会編, 臨床描画研究 I, 金剛出版, 50-67.
- 高橋雅春 1993 HTPPテスト 上里一郎監修, 心理アセスメントハンドブック 第2版, 西村書店, 173-185.
- 高石恭子 1996 風景構成法における構成型の検討 山中康裕編, 風景構成法その後の発展, 岩崎学術出版社, 239-264.
- 武井 明 2001 盗癖を呈した男子高校生の描画法による治療経過—「ネコ」の表現をめぐって 日本芸術療法学会誌, 32:1, 12-19.

- 滝川一広 1984 日常臨床の中の「風景構成法」 山中康裕編, 1984, 中井久夫著作集別巻 風景構成法, 岩崎学術出版社, 37-72.
- 田中勝博 1995 卵画と洞窟画—臨床描画における楕円枠空間の研究(第1報) 日本描画テスト・描画療法学会編, 臨床描画研究X, 金剛出版, 151-168.
- 寺沢英里子 2000 誘発線画法とその発展 福西勇夫・菊池道子編, 現代のエスプリ390 心の病の治療法と描画法, 至文堂, 132-143.
- 寺沢英里子・伊集院清一・津田 均・世吉博昭・秋山 剛 1992 誘発線法とロールシャッハ・テストとの比較検討の試み 日本芸術療法学会誌, 23:1, 5-15.
- 津田舜甫・国吉政一・篠原大典・小池清廉 1962 Baumzeichenversuchの研究(4)—聾啞児のBaumzeichnung 精神神経学雑誌, 64, 818.
- 山森路子 2002 バセドウ病患者の空間構成の特徴とその意味—室内画を通して見た主体心理臨床学研究, 20:1, 35-43.
- 山中康裕(編) 1984 中井久夫著作集別巻 風景構成法 岩崎学術出版社
- 横田正夫 1993 草むらテストにおける精神分裂病患者の全体的特徴 精神医学, 35, 27-33.